

〈PR〉

カラダの相談室



梅田脳・脊髄・神経
クリニック(大阪)
町田脳神経外科(東京)



理事長 田辺 英紀さん 第2回

首の痛み、手のしびれ、使いにくさ

首の痛み、手のしびれなどは首の神経障害かもしれません。原因となる部位を明らかにして、まずは保存的治療です。それでも治らず困ったときは手術がとても有効です。神経外科の低侵襲な顕微鏡下の減圧手術で症状の消失、改善が見込めます。

様子見せず一度はMRIを生活で困ると手術の選択も

Q 首の痛み、手のしびれ、使いにくさなどの原因や治療法を教えてください。

A 頸椎(けいつい)が経年変化で変性し、骨棘(こつきょく)骨のとげ)やヘルニアが発生します。それにより、首の神経が圧迫・刺激され、首や手に痛み・しびれを起していきます。腫瘍も時に原因となります。進行すると、手足の使いにくさや両手足のしびれ感、感覚障害、さらには排泄(はいせ)障害になることもあります。

まず、治療を考えるときに大事なことは、症状を起こす原因が脊髄(せきずい)にあるのか、脳なのかを神経学的に突き止めることです。歩きにくさなどは、腰部脊柱管狭窄症(せうくわくせうくわくせう)と違っておられる人が多くいます。原因は腰ではなく、脳の障害や首の神経障害のほか複合的に起ることもあります。

また、症状が軽度であれば多くの人は痛みやしびれなどを我慢し、様子を見ている。しかし、その症状が脳梗塞の前兆ではないかと思つて、当クリニックに来院・相談する人がいます。この考え方は非常に大事なことです。原因究明のためにも一度はMRIのある医療機関で検査を受けることをお勧めします。

当クリニックでは最先端機器で解像度の高い3・0テスラMRIや神経伝導速度検査、筋電図、デジタル脳波計、頸動脈エコーなどの検査機器を導入し、原因となっている病巣などを確定しています。その結果、保存的治療か手術適応なのかを判断しています。

もちろん最初は保存的治療です。「薬剤治療」と「ペインクリニック」、それから「理学療法」です。これが最初にやるべき治療になります。

Q 手術を選択する方がよいのはどのような段階ですか。またどのような手術でしょうか。

A 保存的治療を1〜3カ月間続けても症状の改善がなく、仕事や日常生活動作、趣味の継続に困っている人は手術を選択する方がよいと思います。何年も我慢している人も多くいます。

ただ、神経の手術と聞くと怖くて躊躇(ちゅうちよ)する人が多いようですが、経験豊富な脳神経外科医は微細な手技を持つ脳手術のエキスパートです。手術をすると本当に症状が消失、改善します。当クリニックには入院設備がありませんが、提携している大阪府下の2つの病院に入院していただき、私が執刀しています。

私が行う頸椎の手術です。「頸椎(けいつい)椎間板(ついばんばん)ヘルニア」や「頸椎症」の手術は、脳神経疾患の手術と同じです。

脊髄の障害箇所が1カ所の場合は、顕微鏡を用いて、首の前方を3センチほど切開し、気管、食道、筋膜などの組織を傷つけずに、患部に近づき500円玉くらいのスペースを確保します。

そして、脊髄や神経根(神経の本線の脊髄から左右に枝分かれする細い神経)を圧迫するヘルニアや骨棘を取り除く(除圧する)低侵襲の手術です。約1時間の手術で、当日に座位食事、翌日には歩行可能で、約1週間で退院できます。

また、脊髄への圧迫が3カ所以上と広範囲にある場合は、首の後方からの除圧になります。その場合でも前方から同じように低侵襲な手術です。(今回は腰の痛み、足のしびれ、歩きにくさ)



たなへ・ひとし 1984年、大阪医科大学卒業。医学博士。北野病院などで脳神経外科手術の研究を重ね、城山病院院長や田辺脳神経外科病院院長を歴任。年間600件以上の脳・脊髄手術を行う。2020年より梅田脳・脊髄・神経クリニックと町田脳神経外科(東京)の理事長を兼任。24年、日本脳神経減圧術学会会長。

〈企画・制作〉産経新聞社メディアビジネス局

☆梅田脳・脊髄・神経クリニック 大阪市北区太融寺町3の24 日本生命梅田第二ビル1階 Tel.06・6312・0011
☆町田脳神経外科 東京都町田市根岸町1009の4 Tel.042・798・7337